知ってます？市の森林皆伐で市民の財産が失っていること。

白旗山都市環境林ニュース

2024年11月20日(水)　NO.7　発行:札幌の自然を守る会代表梶田清尚　HP:https://midori.kei1.org

白旗山の森林破壊を止めよ

秋元札幌市長に「都市環境林」の目的を問う

「ゼロカーボンの実現」が むしろCO2増加になる

札幌市の秋元克広市長は「ゼロカーボンの実現」のための政策を進めていますが、実はむしろ二酸化炭素(CO2)を増加させています。市民の貴重な財産である「白旗山都市環境林」内の動植物の生態系に関する事前調査もなく、極めて事務的に森林皆伐を進めています。また宣言にあるゼロカーボンの数値設定もなく、これまで森林１２カ所３０ヘクタールにわたって感覚的に皆伐を行っています。皆伐現場は誰が見ても無残な姿となり、この風景は破壊そのものです。

市長は今後もさらに森林破壊を続けるのか。一体何のための森林破壊なのかとても理解ができません。

「白旗山都市環境林」を 市長自ら破壊するのか

このような行為は、市長が「ゼロカーボンの宣言」を大義にしたことにより森林破壊の開始宣言となったのです。市長が白旗山都市環境林を破壊するほど憎むのはなぜなのでしょうか。皆伐による森林破壊する理由を、市長にお伺いしたいところです。皆伐を進める部署は､「白旗山は元々林業のための森林で、５０年ごとに皆伐しているがこれまで伐採しなかったのは休止していただけ」と説明しています。

これでは４０年前にあえて「白旗山都市環境林」と命名した認識の欠落です。市長は白旗山について、「林業の森だからゼロカーボンの宣言により皆伐する」との考えのようですが、そのことが市民の貴重な財産となる森林皆伐という破壊なのでしょう。

ゼロカーボン社会の実現 市の森林管理方針がベスト

森林は大気中の二酸化炭素(CO2)を吸収し、それを数十年から数百年にわたり体内に炭素を蓄積、つまり固定します。さらに木材として建築物などに利用することで炭素を長期間貯蔵可能となります。2050年カーボンニュートラルの実現に貢献するためには、間伐の着実な実施に加えて、「伐って、使って、植える」という資源の循環利用を進め、人工林の再造林を図るとともに、木材利用を拡大することが有効です。札幌市長が進める森林皆伐は、一気に進めることで森林が破壊されそこに生息する動植物への影響もあります。また、ゼロカーボンの実現を大義にしていますが、いまの森林皆伐方針では、明らかに二酸化炭素濃度が高まります。

ゼロカーボンの実現を図るには、まず白旗山都市環境林のもつ総合的な森林管理を否定してはなりません。札幌市が決めた白旗山都市環境林の森林管理に沿って実現することを申し入れます。

白旗山都市環境林の目的に森林破壊はない

「ゼロカーボンの実現」と「森林皆伐狙い」は相反した政策だ

「皆伐」白旗山の植樹に着手、札幌市とクワザワホールディングス(HD)が連携協定を結んだ—こうした記事が北海道新聞11月15日付に掲載された。札幌市は白旗山都市環境林の皆伐を無定見に進め、いまや無残な森林となり、みにくく山肌がさらされている。その皆伐に建設業のクワザワHDが植樹を行いたいと札幌市と協定を結んだ。2029年度までの5年間、皆伐した1ヘクタールについて植樹するという。札幌市は今後も順次、植樹、伐採のサイクルを繰り返す考えを変えていない。しかし現実は、HDが対応できる範囲ではない。

皆伐は無残にも既に３０ヘクタールが行われており、今回の植樹協定は１ヘクタール分の管理だけ。さらに皆伐は年が明けてもずうっと続く。札幌市は皆伐理由を「もともとこの山は林業のため」と森林皆伐は当然のことという。皆伐しても「ゼロカーボンの実現」により二酸化炭素を吸収すると説明を続けている。そんなバカげた話はない、森林を皆伐してどうしてゼロカーボンになるのか、むしろ二酸化炭素を増加させるだけではないか。市民を愚弄した物言いだ。ようは、森林の皆伐とゼロカーボンの実現を図る政策はどう表現しても相反するものだ。

都市環境林の認識改めよ「山は林業のため」だけではない

問題なのは相反する政策だけでなく、白旗山都市環境林の目的を市民に知らせず変更したことだ。森林の皆伐理由は、「山は林業のため」と言い切っているが、この考えはいつの時点で行政変更したのか、もし変えたのなら市民に知らせず市長が勝手に変えたのか、それとも市長が知らないで現場が勝手に変えたのか、いずれにしても市民は知らないことになる。

札幌市は１９８２年「緑の基本計画」を策定しており、これに基づき適切な森林管理を通じて森林機能を総合的に高めていくとして１９８４年に「白旗山都市環境林基本計画」を立案している。

その計画は翌年１９８５年から実施となり、そのとき旧来の西山造林地から「白旗山都市環境林」に改名された。それまでの白旗山は木材生産主体の経済林であったのが水資源の涵養、大気浄化、動植物の保護･森林レクリェーションなどの公益的機能のある新たな森林となった。さらに節度ある木材生産まで含めた森林のすべての機能を高度に追求する都市林としてスタートを切った、当時としては画期的な山づくりの考え方だった。そのことで市民の貴重な森林という財産を今日まで保全してきた。

都市環境林までの経緯 秋元市長自ら無視か、森林破壊へ

こうした「白旗山都市環境林」となるまでの経緯をよりによって秋元札幌市長自らが、すべて無視したことになる。今現在「この山は林業のため」と、皆伐による森林破壊に舵を切ったことは、「白旗山都市環境林」の位置づけを市長職権で変更したのか。

その結果、秋元札幌市長は行政の継続を断ち切り、市民から自然散策の場を取り上げ、森林に生息する動植物に影響を与えている。まさに市長による独裁的な振る舞いであり傲慢としか言いようがない。

市民の散策場が無残に破壊 白旗山の皆伐理由の説明を

わたしたちは札幌市長自ら４０年前に行政決定したことを無視していること、その結果、広大な範囲で森林が破壊されていること、これらの行政行為において市民の自然散策の場がまさに行政の勝手によって壊されている。これでよいわけがない、これだけの破壊をこれからも継続する以上は、秋元札幌市長による公開説明が必要ではないか。行政が決めたことを職権を使い勝手に破る、これが札幌市の本質なのか。この一連の市長の振る舞いは、行政全般はもとより市政全般にかかわる大変大事なことだ。

札幌の自然を守る会は、秋元市長の「白旗山都市環境林」に関する考えの市民説明をいただきたい。

追記

当ニュース掲載のシリーズ５回目は次号以降に掲載します。